

令和元年度 高校卒業式 式辞

新型コロナウイルス感染対策のため、このような形で令和元年度の卒業式を行わなければならない状況は非常に残念であり、卒業生に対し、大変申し訳なく思っております。

現在の社会状況を鑑み、ご理解の程よろしくお願いいたします。

卒業生の皆さん、卒業おめでとございます。

本校での三年間の学園生活を終え、新たな世界に飛び立とうとしている卒業生の、大きく立派に成長した姿を目の当たりにし、誇らしく、そしてまた清々しい感動で胸が一杯になっているところでは

皆さんが、本校で過ごした日々を振り返り、何が一番心に残っているでしょうか。勉強はもちろん、クラブ活動、三饗祭、体育大会や広島長崎へ行った修学旅行などの学校行事、また、日常生活での友人と過ごした日々など、さまざまな記憶がよみがえってくるのではないのでしょうか。皆さんにとってはそのすべてが、かけがえのない思い出となっていることと思います。

高校時代の経験は、一生忘れることの出来ない財産です。どうか、それを心に刻み、体に染み込ませてください。そして、三高で共に学び、支え合った友達がいて、更に、皆さんを守り育ててくれた保護者の方々、教え導いていただいた先生方、その他にも多くの支えがあったことを決して忘れないでください。感謝の気持ちを持って、これからの人生を力強く歩んでいくって欲しいと思います。

さて、皆さんがこれから進んでいく世界は、スマートフォンなどの情報端末の普及で、様々な情報の入手が容易となり、世界の広さを、より身近に感じることが多いと思います。情報で「世界」を感じるのではなく、本当の世界を知るということは、自分と異なる価値観を持つ人々と実際に交わり、互いの捉え方の相違を認識した上で、価値観を共有することが大切です。これを実践することで、自分の成長にも繋がります。自分の殻に閉じこもらず、積極的に多くの人たちとコミュニケーションを深める努力を続けてください。社会は目まぐるしく変化していきますが、努力を惜しまず、向上心を忘れず、日々研鑽を積み、自らの手で素晴らしい未来を創り出してください。

また、私は、これからの社会で求められる人は「マニュアルを超える人間」だと思っています。

どんな社会でもマニュアルは大切で、絶対に必要なものです。これを無視して社会の中では誰も生きてはいけません。しかし、必ずマニュアルでは対応しきれない事態は起きます。その時、どういう行動がとれるか。その時の対応によって、人の価値は決まると思っています。では、どうすれば適切な行動が取れるのか。そのカギは、月並みですが「人を思いやる心」にあると思います。「相手を思いやる心を持って、自分の考えを巡らし、しっかりとした行動を取ること」だと思っています。マニュアルにしがみつき、何も考えないのは論外です。何かをしなればと考え、自分の立場を守ろうとか、あるいは損をしたくないという思いに縛られていたら、結局は判断を誤った結果に結びつきます。公正な心で、目の前の人を思いやる、また、目の前にいない人々をも思いやる、あるいは社会に対する影響を思いやる。そして、毅然と行動する。決して簡単ではありませんが、皆さんのすべてが、是非そうあって欲しいと願っています。

皆さんは人生をどのように考えていますか。中国の古典、孔子の教えを表したとされる『四書五経』のひとつ「易経」の中に、「運命」・「立命」・「宿命」という考え方があります。「物事の巡り合わせ、すなわち『運命』を人は替えることはできないが、志を立てること『立命』によって、実際に起こること『宿命』は変えることができる」というものです。どうか、これからの人生においても、自ら志を立て、進むべき道を切り拓いてください。自分の立てた「立命」によって、今後、素晴らしい「運命」を築きあげてください。

最後になりましたが、本日、ご自宅に帰られましたら、私からのメッセージとして「本来ならば、保護者の方々と共に皆さんの晴れ姿をお祝いたかったということ。また、これまでの三年間、中には六年間、保護者の皆様から本学園にお寄せ戴いたご支援、ご協力に心から感謝をしていたということ」をお父さんやお母さんにお伝えください。よろしくお願いいたします。

卒業生の皆さん、三高生であったことに誇りを持ち、健康に留意して、それぞれの目標に向かって精進、努力され、今後に実を結ぶことを心から祈念して、私の式辞とさせていただきます。

令和二年三月二日

日本大学第三高等学校 校長 新井勇治

